

議題

(1) 神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進計画中間評価報告書（案）について

<事務局より資料 1、参考資料 4 について説明>

(勝俣委員)

5 ページの (3) 各ライフステージにおける評価において、達成状況が「◎」という記載がありますが、そのような表現でよいのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

「◎」が、何を指すかというご質問でよいでしょうか。数値目標に対する直近値が当該年達成予測値を達成している場合を「◎」で表しています。5 ページの (3) 各ライフステージにおける評価では、その「◎」の数によって 4 段階の評価に分かれています。

(石井会長)

「◎」が「二重丸」と漢字で記載されていると分かりやすいかもしれません。

(鴨志田委員)

例えば、評価区分「B」である場合、半数以上の予測値の達成状況が◎で、残りの半数未満の部分が、全て△だった場合と全て×だった場合では差は出ない、あくまでも前向きの評価をしているという解釈でよいでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい、数値目標だけでなく取組み状況も含めた前向きな評価としています。

(海原委員)

資料 1 は、議会へ計画最終年である平成 34 年度に向けた、計画の進捗を報告するための資料という理解でよいでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい、その通りです。

(海原委員)

そうしますと、先ほどの資料説明に対する意見については、後日、別紙により提出でよいでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい、そうです。

(石井会長)

大変分量が多いですが、各委員には資料1を確認頂いて、別紙により5月18日までに意見等を記載頂きたいと思います。その際に、質問があれば事務局へ問合わせて下さい。

<事務局より計画策定部会について(参考資料1について説明)>

(石井会長)

ただいま、事務局から説明がありました通り、部会長の選出を行いたいと思いますが、協議会長としての提案なのですが、昨年度の計画評価部会と同様に、部会長には荒川副協議会長、副部会長には鴨志田委員にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(石井会長)

協議会に設置されている部会を併催しているため、本日は、このまま私が議事を進めさせて頂きたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

議題

(2) 神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進計画(一部改定素案)について

<事務局より、資料2-1・2-2、参考資料2・3について説明>

(勝俣委員)

資料2-1の内容について、直近値の年度にバラつきがありますので、統一性を図るべきではないかと思えます。

(事務局：健康増進課)

頂いたご意見については、ごもっともだと認識していますが、本計画素案のデータについては、県で調査したものや国で調査したもの等、様々なデータがあり、本計画素案で示しているデータがそれぞれ最新のものになります。全て統一させたデータにすることが理想的ではありますが、現状、難しい状況です。

(石井会長)

県の条例にオーラルフレイル対策が入ったことは、歯科界の中で、行政レベルでも、歯科医師会レベルでも反響を呼んでいます。計画一部改定素案には、オーラルフレイルを含めて改正条例で新たに位置付

けられた事項が盛り込まれておりますので、皆様からご意見を頂きたいと思っております。

(荒川副会長)

ぜひ皆様に、認識していただきたいことがございます。資料2-1の6ページをご覧ください。神奈川県と全国の3歳児のむし歯の状況を比較しているグラフです。昭和45年当時は、全国よりも神奈川県の方がむし歯は多かったのです。むし歯は文明病というような時代で、贅沢な人ほど、砂糖をたくさん摂ることができるために、むし歯が多いという時代がこの時代です。そこで、神奈川県の歯科医師会を中心に間食無糖運動を展開したところ、成果が現れ、全国値を下回るまで減ってきました。その後は、むしろむし歯は、社会経済要因に非常に影響されるということで、教育レベルが高く収入が多い方がむし歯は少ないという傾向に時代が変わってきました。

次に12歳児については、15ページのグラフ「(イ)12歳児(中学1年生)一人平均むし歯数の年次推移」をご覧ください。3歳児までは生活の状況等が大きくむし歯に影響しますが、12歳児の平成22年度では、全国よりも神奈川県はかなり少ない状態で、良い傾向なのですが、その後の変化を見ていただくと直近値である平成28年では、全国が0.8本で神奈川は0.7本となっています。神奈川県は横ばい状態であるにも関わらず、全国では減ってきています。ひょっとしたら来年あたり、全国値を上回るのでは

ないかと危惧しています。今回、最先端の条例ができましたので、う蝕予防に向けてさらに真剣に取り組む、この中間評価よりも最終評価では、12歳児も全国より神奈川県がぐっと下回っている状況になっていただきたいなと思っています。

今日は、様々な関係機関の方々がお集まりですので、お話しさせて頂きました。ぜひよろしくお願ひします。

(海原委員)

資料2-1では、数値がパーセントで示してありますが、パーセンテージを算出する前のデータを見ようとする場合には、どのようにアクセスしたらよいでしょうか。

(事務局：健康増進課)

データによって、実数を示せるものと示せないものがありますので、具体的にどのデータについてお知りになりたいのかお伝え下されれば、調べることは可能です。

(佐藤委員)

荒川副会長からのご意見を頂き、今後どのようにしていくべきか考えていく必要があります。資料2-1の15ページのグラフで、神奈川県は横ばいの数値であって、全国では減ってきていることを考えると、フッ化物洗口を行っている京都や佐賀、新潟等では数値が下がってきているため全国も下がっており、フッ化物洗口を行っていない神奈川は横ばいの状況であるのではないかと考えています。神奈川県の条例の中には、もともとフッ化物応用が謳われていますが、どのようにフッ化物を応用していくのか、県としてどのように考えているのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

基本的施策第5号には、「フッ化物応用その他虫歯を予防する対策を実施する市町村その他の関係機関に対し情報の提供等を行うこと。」とありますが、これは条例の中では情報提供を行うということに留まっております。フッ化物洗口を県で行うことに関しては、なかなか答えが出せないところです。もしも、現状が危うくなり、年次推移が神奈川県と全国でひっくり返るような状況になったときには、何かしらの対策等が必要になってくるかと思えます。そういった状況を見ながら、県では、今後の展開を考えていくことが必要かと考えていますので、今後ともアドバイス等をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(海原委員)

4月1日から、改正条例が施行され、全国に先駆けて神奈川県でオーラルフレイルを取り入れた様々な反響があるということでしたが、反響の内容を教えて頂きたいです。

(事務局：健康増進課)

神奈川県では、普及啓発をデジタルサイネージという方法で、電車の中や駅で映像を流したところ、他県の歯科医師会からもそういった映像を使わせてもらえないだろうかという話がありました。

今後は、県内の歯科医療機関が、オーラルフレイルをどのように改善していくかということが課題となってきますので、現在は、オーラルフレイル改善プログラムを作り、効果検証しているところです。改善プログラムの内容について教えて欲しいという問い合わせは、全国の歯科医師会や病院、歯科医院から、からも多数きています。

神奈川県は、オーラルフレイル対策を全国に先駆けて実施していると大変注目されており、先日のNHKの番組でも、神奈川県歯科医師会の会員の歯科医院で行われている取り組みが紹介されました。

(事務局：健康増進課)

石井会長、ありがとうございました。委員の皆様、本日はありがとうございました。  
繰り返しのお願いになりますが、本日配布をさせていただきました意見照会の回答書を5月18日(金)までに、健康増進課あてにご送付くださいますよう、お願いいたします。本日のご意見と、意見照会の内容をとりまとめまして、素案に反映し、6月定例会に報告後、パブリックコメントを経て、「案」を、第2回協議会において、お諮りさせていただきたいと思ひます

次回、第2回は8月の後半での開催を考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それではこれをもちまして閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上